

寫之蛙

愚草

正坐して尾骨とんがる蛙かわずかな

沼の青 水の都の蛙かわすかな

杜の青 白※き揺り籠風にゆれ

卵塊の悲しき数珠を水につけ

鳴めいめいあ々蛙 金のまぶたに瞳まなことじ

老ろうろうあ々蛙 白き腹もて往生し

※白き揺り籠 樹枝上に産むモリアオガエルの泡状の卵塊。

鳴々蛙 なきぶくろ  
鳴囊のせわしけれ

幼々蛙 ようようあ  
かすかにククの鼻音あり

眠々蛙 みんみんあ  
脚のくの字の欠伸して

鳴々蛙 ンナタ  
声をずらして秦鳴曲かな

夢々蛙 むうむうあ  
ジムドリビリアの碑を捜し

※ジムドリビリア 草野心平の愛でた蛙。

やせ蛙 背にたて縞の墨を入れ

うし蛙 ねむる地霊の躰いびきかな

ながむしに半身はんみのまれて蛙鳴き

雷いかずちのつるぎ呑みこむ蛙かわずかな

平伏沼へぶせぬま かわずの聖地被曝して

※ながむし 蛇のたぐい。人は巻かれ、蛙は吞まれる。  
※平伏沼 福島県川内村、モリアオガエルの繁殖地。

写し身のむかし蜻蛉か水鏡

陽気ずり人面相の毒蛾いで

知恵の輪をすてて逃がるるとかけ蜥蜴かな

転生の冬虫夏草とぼけおり

線虫やなんじゃもんじゃの謎を解き

※転生 生まれ変り。輪廻（りんね）。  
※線虫 はりがねむし。

兜虫 弓を失くしたゴーシユかぢとむしかな※

ぽくぽくと蜘蛛の湧き出る木魚かな

蝻螂のかざす鎌あり風たけり

蝶ネジをかざしてすすむ兜虫

蚰蜒けしげじやもつれし脚を外しおり

※ゴーシユ セロ弾きのゴーシユ。

蝶二頭 まんじ 卍むすびて昇天し

蜻蛉 かげろう の薄き衣に月宿る

カメムシや神の触りし匂い箱

蟹の脚 くの字一つが流れつき

蜚蠊 こきざり や火熨斗 ひのし の下に身を焦がし

※火熨斗 炭火を入れて使った昔のアイロン。



ゴキブリや畳の焦げが走りだし

赤竜せきりようを紐ひでりに結んで早かな

秋の色いなり 蝗の腹はらのみみじして

動かひきがえるずば石の地蔵と蝦蟇

老蠅の死にそびれして除夜の鐘

※赤竜 蚯蚓（みみず）。

極楽やひねもす時を刻まざる

閻魔帳 罪と罰とに馴染みあり

ケラケラと笑い川蝉かわせみわれに棲み

日めくりの狂人日記やつむじ風

妄想を竹に詰めたる節の数

花祭り指をしゃぶりし水子かな

一休の泪なみだたらずやきのご雲

山姥や景色の中の尿ゆばりかな

斑猫はんみょうの招く手もあり黄泉坂よみじざか

宣言を眼裏に閉じ眞砂子ゆき

※眞砂子

高知独立宣言つづりしも急逝。  
坂東眞砂子五十五歳。

染色体  
らせん階段踏み外し

口ほどの空蕁荑がものを言い  
からやつきよう

戦好き 遺伝子どもが雀躍し  
いくわ

オハヨウと耳語で囁く国が見え  
じい ねが

秘々と負の兵士孵化を待ち  
ひそひそ つわもの

※耳語 耳打ち、ひそひそばなし。

死の商人 髭を落としてシヤイロツク<sup>※</sup>

核の傘被りて売りし 核融炉

密にして壊れし国を匿<sup>かく</sup>しおき

亡霊に憑かれしおんぼ<sup>※</sup> 参拝みおり

参拝のお百度なりて火縄踏み

※「ヴェニス<sup>の</sup>商人」に登場する金貸し商人。

※おんぼ 隠坊、隠亡。墓守。

※火縄 踏むほどに燃える沖繩の火。

世界を敵にした参拝。

しらじらと掟破りが則を捏ね

テロと言ひ目隠すや頬の骨

亡霊の脱原発に腰がぬけ

棺一つつける薬の無き男

反り返るヤマトタケルの干物かな

※ヤマトタケル 天皇の皇子で熊襲を滅ぼした武将。

敗戦忌 記憶装置の壊れおり

白骨の脛しらほね すねにゲートル絡みつき

沖縄の基地に這いずる地虫あり

カチャーシー輪をつくりて踊る人

沖縄に独立独歩の旗なびき

※カチャーシー 沖縄の日常にとけこんだ踊り。

名護の勝利を祝って稲嶺市長ともに踊る。

何故か阿波踊りに通じるものあり。

天皇に紙の爆弾そつと投げ

園遊会 うぞうむぞうが言ことを祝ほぎ

国粹のしぼりし酒に酔いしれて

横臥して密約ぬぐう舌舐したびらめ

歌はじめ牛も垂涎よだれのながき哉かな



二〇一四年 春月

七八六—〇三二六

高知県高岡郡四万十町

大正中津川二二〇—一

〇八八〇—一七—五六六八

佐々木泰 (愚草)